

風土記の丘の花だより¹⁰⁵

今、そしてこれから見られる植物(2021年10月1日)

早いもので一年の4分の3が過ぎました。もう10月です。よく頑張ってくれたツクツクボウシに「お疲れ様でした」と言いたいです。花壇にも道端にも秋の花が咲いています。今回も4つ紹介することにします。



谷山家住宅の庭で台湾ホトトギスの花が咲き出しました。茎の先から枝分かれした花茎を伸ばして花をつけるのが特徴です。葉を食べられ茎だけになっていたら、それは恐らくルリタテハというチョウの幼虫(写真)の仕業です。毛虫みたいですが無害です。成虫もとてもきれいですよ。



ナワシログミの花が咲いています。小さな花ですが、たくさん固まって咲くので、見応えがあります。香りも楽しめます。それでチョウやアブなどの昆虫がよく集まります。ナワシロは「苗代」のことで、翌年の5月頃に実が熟するのでこの名前が付いています。グミの仲間の葉は厚く、ゴワゴワしていて、裏は銀色っぽいので他の木との区別は簡単です。



ヒメミカンソウの可愛い実がなっています。といっても、しゃがみ込んでよく見ないと分からないほどの小さな実です。万葉植物園の水生植物の周辺に多いですが、道沿いでもよく見られます。小さな実を手にとってよくよく眺めてみると、確かにミカンのようにも見えます。この頃、これより葉が円く、背の高いナガエコミカンソウがものすごく増えてきました。



聞き慣れない名前かもしれませんが、アオミズの花も咲いています。これは、梅園の南側の道沿いで撮影しました。サザンカの根元です。葉に隠れるようにチマチマした小さな花を付けています。草全体が瑞々しく緑も艶やかで、まさに「あおみず」です。誰にも振り向いてもらうことはないかもしれませんが、よく見るととてもきれいな植物だと思います。 松下